

(2017 年度)

専任教員の教育研究業績

広島女学院大学

目 次

<国際教養学部>

【国際教養学科】

1. John Herbert 教授	・・・	1
2. 河内 清志 教授	・・・	1
3. 中田 美喜子 教授	・・・	2
4. 西口 理恵子 教授	・・・	3
5. 佐藤 茂樹 教授	・・・	3
6. 植西 浩一 教授	・・・	4
7. 渡邊 ゆかり 教授	・・・	5
8. 柚木 靖史 教授	・・・	6
9. 足立 直子 准教授	・・・	6
10. 福田 道宏 准教授	・・・	7
11. 永野 晴康 准教授	・・・	8
12. 西河内 靖泰 特任准教授	・・・	9
13. 澤村 雅史 准教授	・・・	10
14. 磯部 祐実子 専任講師	・・・	11
15. 伊藤 千尋 専任講師	・・・	12
16. 関谷 弘毅 専任講師	・・・	14
17. 戸田 慧 専任講師	・・・	16
18. Paul Spicer 助教	・・・	16
19. Jamie Szuba 助教	・・・	18
20. Timothy Wilson 助教	・・・	18

<人間生活学部>

【生活デザイン・建築学科】

1. 細田 みぎわ 教授	・・・	21
2. 三木 幹子 教授	・・・	21
3. 小野 育雄 教授	・・・	22
4. 小林 文香 准教授	・・・	22
5. 熊田 亜矢子 准教授	・・・	23
6. 真木 利江 准教授	・・・	23
7. 檜崎 久美子 准教授	・・・	24

【管理栄養学科】

1. 石長 孝二郎 教授	・・・	25
2. 下岡 里英 教授	・・・	25
3. 渡部 佳美 教授	・・・	26
4. 市川 知美 准教授	・・・	28
5. 佐藤 努 准教授	・・・	29
6. 土谷 佳弘 准教授	・・・	30
7. 妻木 陽子 准教授	・・・	31
8. 野村 希代子 専任講師	・・・	31
9. 野村 知未 専任講師	・・・	33

【幼児教育心理学科】

1. 神野 正喜 教授	・・・	34
2. 三桝 正典 教授	・・・	34
3. 中村 勝美 教授	・・・	36
4. 山下 京子 教授	・・・	36
5. 前田 美和子 准教授	・・・	38
6. 森保 尚美 准教授	・・・	39
7. 村上 智子 准教授	・・・	41
8. 大橋 隆広 准教授	・・・	41
9. 戸田 浩暢 准教授	・・・	42

2017 年度 教育研究業績

国際教養学部 国際教養学科 John Herbert				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) <発表> 1. Student Reflections on Issues Concerning “English in the World”.	単	平成 29 年 12 月	Hiroshima JALT 2017 Conference, Hiroshima YMCA, Hiroshima Prefecture, Japan.	Through a small-scale survey, this paper looks at attitudes towards English in the world held by Global Studies in English students who have completed an “English in the World” course. The results suggest that there may be differences in attitudes between Japanese and non-Japanese students, with non-Japanese students showing more tolerance for non-native speaker (NNS) Englishes and showing less reliance on native speaker (NS) norms (in line with the ELF paradigm). However, although many of the Japanese students hold NS norms in high esteem, there is a level of acceptance of NNS English that indicates it is worthwhile to carry out more detailed longitudinal studies, with larger data samples, in order to find out whether globalization may be changing perceptions towards NS and NNS Englishes in Japan. Hiroshima JALT 2017 Conference, Hiroshima YMCA, Hiroshima Prefecture, Japan. 【関連授業科目：English in the World; 比較言語学 I】
国際教養学部 国際教養学科 河内 清志				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				

(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) <教材> 1. <i>Minimum Essentials 1.2</i>	共	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 教務課 基礎英語教 科書	広島女学院大学の主に基礎科目基礎英語 I ~ II で使用される教材改訂で一部翻訳作業を行った。 (Editors) Timothy Wilson、磯部祐実子 (Authors) Jamie Szuba, Paul Spicer, Timothy Wilson
国際教養学部 国際教養学科 中田 美喜子				
著書、学術論文等 の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 情報リテラシ における能力別 クラスわけの学 習効果 2. 学習環境を保 証する工夫につ いてー教員によ るビデオサイトの 作成ー	単 単	平成 30 年 2 月 平成 30 年 3 月	広島女学院 大学論集 第 65 集 (電子版第 5 号) (8 頁) 広島女学院 大学 国際教養学 部紀要 第 5 号 (8 頁)	情報リテラシ科目において、プレテストによって 能力別クラス分けを実施している。その結果、あ る程度の学習効果が認められた。今後も能力別ク ラス分けによる講義の開講により、学習効果が認 められると思われる。(pp:1~8) 【関連授業科目：情報リテラシー】 講義型、演習型科目において学生が復習できるよ うに講義をビデオ収録しておくことなどが理想的 であると思われる。教員のひと手間で簡単に実 現できる方法を紹介する。重要な科目においては 教員が実践することで学生の復習に利用でき学 習効果が得られることと思われる。(pp:35~42) 【関連授業科目：情報リテラシー、博物館情報メ ディア論、図書情報技術論、情報倫理、プログラ ミング基礎、Web デザイン演習】
(教育実践記録等) 1. 専門科目にお けるアクティ ブ・ラーニングの 試み	単	平成 29 年 9 月	平成 29 年 度教育改革 ICT戦略 大会	専門科目におけるアクティブ・ラーニングを実施 した。それぞれの科目における学習効果を検討し た。その結果、成績との相関はある程度有ること が認められた。 【関連授業科目：情報セキュリティ、情報シス テム論】
(その他) 1. 「学生の意識 と行動に関する 研究会」テーマ 「SNS-大学生 の利用実態を探 る」	単	平成 29 年 9 月	第 39 回「学 生の意識と 行動に関す る研究会」 全国大学生 活協同組合 連合会開催	2014 年度に調査した「SNS を利用した大学生の 新しいコミュニケーション」として自己開示と自 己隠蔽度による SNS の書き込みについて報告し た。その結果を検討して大学生のコミュニケーシ ョンの方向性を調査したものである。この発表の ためまとめた結果、3 年前の SNS 利用調査では 現在の SNS 利用と同じではなく、時代の進歩が 速いことが認められた。今後研究調査を継続して

				いく必要性があると思われた（2014 年度電気通信普及財団の助成による研究）。
国際教養学部 国際教養学科 西口 理恵子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Teaching Procedure of 'Creation of Animation' by use of Origami and Clay	単	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 国際教養学部紀要 第 5 号 (11 頁)	本学の国際教養学科の情報科学メジャーでは、専修力、表現力、企画・創造力を育むものとしてアニメーション作成がある。この授業では、粘土によるコマ撮りアニメーションを作成しているが、2017 年度では導入として折り紙によるアニメーション作成も行った。これまでの授業改善に加え、授業概要とその成果を示し、折り紙の役割、自己評価の方法についても考察を行った。さらに今後へのより効果的な授業計画の提案をした。 (pp:56~66) 【関連授業科目：アニメーション作成】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
国際教養学部 国際教養学科 佐藤 茂樹				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 女歌、「恋歌」における「わくらばに」について	単	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 国際教養学部紀要 第 5 号 (12 頁)	在原行平の「わくらばにとふ人あらばすまの浦にもしほたれつつわぶとこたへよ」は『古今集』に撰入され有名である。「わくらばに」を用いた和歌は、『新古今』まで勅撰集では詠じられることはない。新古今時代に再発見された歌語と言える。ただ、その間「私家集」では詠まれている。『古今』から『新古今』のあいだ、「恋歌」においては「新古今時代」までは、「わくらばな」逢瀬を期待する歌を詠む。一方、「新古今時代」は「わくらばな」逢瀬さえなく、期待もしないと詠じる。ここに、女歌の「会不逢恋」「待恋」に相応しい歌詞となった。(pp:67~78) 【関連授業科目：女性文学の世界（古典編）】

(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
国際教養学部 国際教養学科 植西 浩一				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 1. 小学校国語科 教育法	共	平成 30 年 3 月	建帛社 (21 頁)	第七章「話すこと・聞くことの学習指導」及び第十四章「評価」を執筆。第七章では、新学習指導要領のもとでの双方向的コミュニケーションの育成の重要性を説き、その方途を村松賢一らの研究を引きながら示す。また、聞くことの指導の重要性を指摘し、その系統的指導のための能力表と留意点を示す。第十四章では、評価の基本的な考え方、評価に求められるもの、これからの評価の在り方等を示す。(pp: 73~82、157~167) 著者: 阿部藤子、相原貴史、成田信子、中村和弘、 <u>植西浩一</u> 、萩中奈穂美、宗我部義則 他 11 名 【関連授業科目: 国語科教育入門、国語科授業実践研究 I・II、国語科教育法 I~IV】
(学術論文等) 1. 「聴く」に着目した大学でのパネルディスカッションの授業実践ー オバマ大統領広島訪問を題材としてー	単	平成 29 年 6 月	国語教育実践理論研究会紀要 25 国語教育実践理論研究会 (8 頁)	パネルディスカッションの授業実践を「聴く力の育成」の面から分析・検討する。ディベート的な勝ち負けを競う活動ではなく、様々な角度から問題を検討し、合意形成を探るパネルディスカッションを通して、双方向的に話し聴く場での「聴くこと」の指導の在り方について考察する。分析の対象は、「日本語文章表現法」において実施したパネルディスカッションのプロトコルで、「聴くこと」に焦点化して、相互理解を深め、合意を得るための方途、司会者の役割等について考察を進めた。(pp:95~102) 【関連授業科目: 日本語文章表現法】
2. 学習指導要領改訂の意義と課題ー中学校における音声言語指導充実のためにー	単	平成 30 年 2 月	月刊国語教育研究 日本国語教育学会 No550 (4 頁)	「平成 29 年版の中学校学習指導要領 国語」について、音声言語指導に焦点化して、改訂の意義と課題を指摘する。今回の学習指導要領は、能力主義と言語活動主義の止揚が企図されており、音声言語指導においても「活動あって学びなし」の状況を克服する道が示された点に意義がある。また、わかり合うことの困難さを前提としたコミュニケーション観に基づく指導の在り方が示されたことも評価できる。今後は「聞くこと」の指導

3. 「夢十夜」の教材研究－第一夜の素材的研究を中心に－	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 国際教養学 部紀要 第 5 号 (17 頁)	のさらなる充実による共感や感動を伴う対話の成立が課題である。(pp:32~35) 【関連授業科目：国語科教育入門、国語科教育法 I・II】 アクティブ・ラーニングが求められる中、これを深い学びに高めるためには教材研究の徹底が求められる。また、文学研究と国語科教育の乖離も問題で、この点の改善も急務である。この認識のもとにこれまでの先行研究の蓄積を踏まえた夏目漱石「夢十夜」の教材研究と実践構想を提示する。ここでは、教科書本文の選定と挿絵の吟味、研究者間で見解の分かれる問題についての指導、学習者の興味・関心を重視した主体的な学びの創出を主な問題として取り上げた。(pp:126~142) 【関連授業科目：国語科教育法Ⅲ・Ⅳ】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
国際教養学部 国際教養学科 渡邊 ゆかり				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 「名詞-によると」から始まる引用表現の文末形式－情報提示の間接性に注目して－	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 大学院言語 文化論叢 第 21 号 (18 頁)	我々が聞き手に何らかの情報提供を行う手法の一つに「引用」という手法がある。本稿では、この引用表現のうち書き言葉の中で用いられる「名詞-によると」から始まる引用表現の文末形式について分析を行った。その結果、文末形式としては、必ずしも、引用情報の後に直接、句点の「。」が続く場合が主流であるとは言えないこと、どのような文末形式を選択するかは、「引用情報の事実性や引用元の見解に対する引用者の共感度、信頼度」や「引用者が引用情報を引用する目的」に左右されていることが明らかとなった。 (pp:25~42) 【関連授業科目：初年次セミナー、卒業研究プレゼミナー、現代日本語基礎文法】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

国際教養学部 国際教養学科 柚木 靖史

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 日本と中国における動詞「誦」字の意味用法―「誦す」との関わりを中心に―	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 大学院言語 文化論叢 第 21 号 (21 頁)	源氏物語などの平安時代和文に使用された漢語動詞がどのような経緯を経て、日本語化したのかという観点から、「誦す」を取り上げ考察した。動詞「誦」字は、中国古代文献と古記録等の日本文献を比較した場合、意味に大きな違いは無いようにみえる。訓点資料でも、「誦す」とサ変動詞で単一的に読まれており、古代中国の動詞「誦」字と日本語の「誦す」の意味用法は、たいへん近い。しかしながら、源氏物語の「誦す」には、「心情を伝えるために口ずさむ」という特徴的な意義が含まれ、この点で日本語化が認められることを述べた。(pp:44～64) 【関連授業科目：日本語の文字と語彙 日本学概論 I II】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

国際教養学部 国際教養学科 足立 直子

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 1. 足立直子・二宮美那子・本廣陽子・森田貴之監修『プレミアムカラー国語便覧』	共	平成 29 年 11 月	数研出版 (496p.のうち、158 頁と 40 頁は監修、6 頁は執筆)	本著は、高校生、大学生、一般の文学に関心のある人々を対象に編んだ、日本文学全般に関わる入門書であり資料集である。高校生も読者対象に設定していることから、古典文学分野においては、古文のみではなく漢文も扱っている。それぞれの領域に専門家の監修者をおき、新見解や新資料を盛り込むよう工夫をした。担当をした近現代文学分野においては、最新の現代作家にも目配りし、近代から現代への文学史の流れが興味をもって通読できるようにまとめた。 〔監修：近現代文学分野 (pp:189～346)、国語表現分野 (pp:409～448)、執筆：芥川龍之介 (pp:250～255)〕 著者：足立直子、二宮美那子、本廣陽子、森田貴之、他 15 名 【関連授業科目：日本近現代文学史】

(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 浦西和彦・壇原みすず・増田周子編『田辺聖子文学事典』	単	平成 29 年 10 月	和泉書院 (1 頁、2 頁、 2 頁、1 頁、 1 頁、1 頁、 2 頁、1 頁、 2 頁、2 頁、 2 頁、2 頁、 4 頁)	<p>本著は、田辺聖子の小説、エッセイ、評論などについて、全 560 項目からなる事典である。田辺氏の作品は、昭和 39 年に「感傷旅行」で第 50 回芥川賞を受賞して以来、世代を超えて読み継がれてきたものが多い。執筆担当の項目で取り上げた殆どの作品が、等身大の女性の生き方を描いたもので、現代の女性に対して指針になる考え方が、時にロマンチックに、時にユーモアをもって示し出されているのが特徴である。項目執筆では書誌情報以外にそのような特徴についてもまとめた。</p> <p>【事典分担執筆：「i めえ〜る」 p. 9、「愛を謳う」 p. 9、「あかん男」 pp. 10～11、「お気に入りの孤独」 pp. 60～61、「おせいさんの団子鼻」 p. 67、「かげろうの女—右大将道綱の母—」 p. 99、「ことづて」 p. 140、「さびしがりや」 pp. 150～151、「狸と靈感」 p. 205、「プレラブ・パーティ」 pp. 280～281、「へらへら」 pp. 283～284、「まごつき一家」 pp. 295～296、「夢笛」 pp. 305～306、「夢渦巻」 p. 312、「夢雁」 pp. 312～313、「夢吟醸」 p. 313、「夢すみれ」 pp. 313～314、「夢煙突」 p. 314、「夢とぼとぼ」 pp. 314～315、「夢の權こぎどんぶらこ」 p. 315 について執筆】</p> <p>【関連授業科目：女性文学の世界Ⅱ（近現代編）】</p>
国際教養学部 国際教養学科 福田 道宏				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 近代日本画における画塾と塾展の位置づけ—青甲社・東丘社・中村大三郎画塾と京都画壇の画塾を中心に— 2. 小千谷 東忠あて大亦観風書簡 二	単 共	平成 30 年 1 月 平成 30 年 3 月	『日本画モダニスト堂本印象と門下の精鋭たち展』、ふくやま美術館 (12 頁) 広島女学院大学国際教養学部紀要第 5 号 (13 頁)	<p>ふくやま美術館での特別展図録の巻頭論文として、戦前から戦後の日本画壇を牽引した堂本印象とその画塾を皮切りに近代日本画における画塾と塾展の活動と営みを跡づけた。(pp:6～17)</p> <p>【関連授業科目：卒業研究プレセミナー・卒業研究セミナー】</p> <p>同誌創刊号で紹介した小千谷東忠あて大亦観風書簡について翻刻するとともに若干の解題を付して掲載した。(pp:3～5、6～16)</p> <p>著者：福田道宏・奥村一郎・高村佳子</p> <p>【関連授業科目：卒業研究プレセミナー・卒業研究セミナー】</p>

(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 広島に息づく 近世の名品 15 売 画は社会福祉と 寺院復興の糧、多 作のひと月僊《江 村舟遊図》	単	平成 29 年 9 月	『GRANDE ひろしま』 第 18 号 (2 頁)	広島にゆかりの近世美術について紹介する、3 人 で回り持ちのリレー連載で広島県立美術館が所 蔵する月僊《江村舟遊図》について紹介した。 (pp:4~5) 【関連授業科目：日本美術史・芸術文化フィール ドワーク】
国際教養学部 国際教養学科 永野 晴康				
著書、学術論文等 の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. ニューカレド ニアの公文書館 の活動の一側面	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 国際教養学 部紀要 第 5 号 (8 頁)	ニューカレドニアは、フランス第五共和制憲法に よって、フランス本国からの特別な自律的地位を 認められた地域である。これまでのフランス国立 公文書館制度、フランスの地方の公文書館制度に 関して筆者の研究を踏まえ、ニューカレドニアを 例に、通常の地方よりも、国家からさらに自律し た位置づけにある公文書館の制度や活動につい て論じている。(pp:27~34) 【関連授業科目：日本国憲法、行政法、公共政策 概論】
(教育実践記録等) 1. 地域デザイン ーエキキタから ヨーロッパまで ー 2. ドイツ語基礎 講座	単 単	平成 29 年 5 月 平成 29 年 10 月、11 月 12 月	早稲田アカ デミー 牛田早稲田 公民館 アカデミッ クサポート センター	大学における地域連携の取組の実践的実証的な 成果の発表とヨーロッパの地域の特色ある街づ くりについて報告をおこなった。 【関連授業科目：公共政策概論】 本学の学生でドイツ語学修希望者に対して、アカ デミックサポートセンターの企画として、3 回に わたってドイツ語基礎講座を行った。基礎法学や 公共政策において日本法の継受においてドイツ 語の役割の重要性を説いている。 【関連授業科目：基礎法学、公共政策概論】
(その他) 1. 平成 29 年教 員免許状更新講 習「近年の教育に 係る法令改正及 び国の審議会の 状況等について」	単	平成 29 年 8 月	平成 29 年 教員免許状 更新講テキ スト (72 頁)	「近年の教育に係る法令改正及び国の審議会の 状況等について」を担当し、教育基本法、学校教 育基本法、地方教育行政法、教育職員免許法等の 近年の教育法規の改正状況を踏まえた教育法規 に関する教材を作成し、更新講習を行った。 【関連授業科目：教育と法】

国際教養学部 国際教養学科 西河内 靖泰				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 図書館員の倫理綱領を意識した健康・医療情報サービス—患者図書室における倫理規範と危機管理	共	平成 29 年 9 月	『全国患者図書サービス連絡会会報』 第 23 巻第 1・2 号 (通巻 79 号) (6 頁)	病院の中に設置されている患者図書室での利用者情報の扱い等について、「図書館の自由に関する自由宣言」「図書館員の倫理綱領」に関する公共図書館の事例を紹介しながら、倫理規範を意識しながら運営することの重要性を提起する。 (pp:1~6) 著者：西河内靖泰、石井保志 【関連授業科目：図書館サービス概論、図書館情報資源概論】
(教育実践記録等) 1. 公共図書館での健康・医療情報サービスにおける免責事項掲示への疑問—公共図書館の事例から見えてきたあるべき姿への提言—	共	平成 29 年 8 月	『第 34 回医学情報サービス研究大会抄録集』	健康・医療情報サービスの専用コーナーを設置している図書館での「免責事項・留意事項」の掲示について、なぜそのような掲示がおこなわれるようになったのか、その背景をさぐり、その問題点を指摘し、あるべき姿について、提言する。(p26) 著者：西河内靖泰、石井保志 【関連授業科目：図書館サービス概論】
(その他) 1. 荒川区立荒川図書館廃止から「ゆいの森あらかわ」の建設に至るまで～西河内靖泰氏に聞く	単	平成 29 年 8 月	『いま知りたい伝えたい～東京 23 区の社会教育白書 2017』 (5 頁)	2017 年 3 月末開館した東京都荒川区の新中央館の「ゆいの森あらかわ」の開館に至るまでの経緯について、荒川区立図書館 OB である私に対するインタビュー記事。(pp:81~85)
2. 2017 年の夏に思う	単	平成 29 年 9 月	『みんなの図書館』 2017 年 10 月号 (通巻 486 号)	広島女学院大が関西学院大と毎夏実施している合同授業「ヒロシマ」の紹介と私が担当した講義に関することについて報告。
3. 明日の平和をさがす本	単	平成 30 年 2 月	『みんなの図書館』 2018 年 3 月号 (通巻 491 号)	広島女学院大が毎年秋に実施している公開セミナーでの私が担当した講演の報告とそこで使ったブックガイドの紹介。

国際教養学部 国際教養学科 澤村 雅史				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 1. 「聖書における結婚と独身—新約テキストを中心に—」	共	平成 29 年 9 月	新教出版社 (新教コイ ノーニア 34『宗教改 革と現代』 所収)	初期キリスト教文書、使徒教父文書、新約諸文書、旧約テキスト、史的イエスのそれぞれにおける「結婚」観を通観し、一般読者向けに提示した。 (下欄1の再録) 【関連授業科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、キリスト教学Ⅰ・Ⅱ、宗教学Ⅰ・Ⅱ、Religions and the World、人間科学ⅠA・B】
(学術論文等) 1. 「聖書における結婚と独身—新約テキストを中心に—」 2. 「マタイ福音書のキリスト論—マタイ 28:16-20を手掛かりに」	単 単	平成 29 年 4 月 平成 30 年 3 月	『福音と世界』 新教出版社 72(4) (6 頁) 広島女学院 大学 国際教養学 部紀要 第 5 号 (12 頁) 〔査読無〕	初期キリスト教文書、使徒教父文書、新約諸文書、旧約テキスト、史的イエスのそれぞれにおける「結婚」観を通観し、一般読者向けに提示した。 (pp:24~29) 【関連授業科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、キリスト教学Ⅰ・Ⅱ、宗教学Ⅰ・Ⅱ、Religions and the World、人間科学ⅠA・B】 従来はキリスト教とユダヤ教の分水嶺として論じられてきた「キリスト論」について、マタイ福音書に関しては、第二神殿期の「二神的—一神教」思想から説明可能であり、また、後のキリスト教の根本教義である三位一体論の起点とも考えられてきたマタイ 28:19b の「三称定式」についても、同福音書の神学的焦点が「神の子」称号にあることを示しているとともに、「二神的—一神教」の枠組みから説明可能であることを論証した。 (pp:79~90) 【関連授業科目：キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、キリスト教学Ⅰ・Ⅱ、宗教学Ⅰ・Ⅱ、Religions and the World、人間科学ⅠA・B】
(教育実践記録等) 特記事項なし				

(その他) 〈学会発表〉 1. 「マタイ福音書のキリスト論— マタイ 28:16-20 を手がかりに」	単	平成 29 年 9 月	日本新約学会第 57 回 学術大会	従来はキリスト教とユダヤ教の分水嶺として論じられてきた「キリスト論」について、マタイ福音書に関しては、第二神殿期の「二神的-一神教」思想から説明可能であり、また、後のキリスト教の根本教義である三位一体論の起点とも考えられてきたマタイ 28:19b の「三称定式」についても、同福音書の神学的焦点が「神の子」称号にあることを示しているとともに、「二神的-一神教」の枠組みから説明可能であることを論証した。
〈講演等〉 1. 「誰がための福音書? ~福音書記者マタイの正体を追って」	単	平成 29 年 6 月	西日本新約聖書学会 第 58 回研究発表会 公開講演会	福音書記者マタイの著者像と執筆意図について自著をもとに講演を行った。
2. Keynote Speech "Contemporary Christian Leadership"	単	平成 29 年 7 月	アジア・太平洋 YMCA 同盟 Change Agents Regional Training	アジア・太平洋地区の次世代リーダーに、聖書に基づくリーダーシップについて講演を行った。
3. 「現代社会の諸問題に対して宗教者ができること」	単	平成 29 年 8 月	第 92 回 浄土宗広島教区普通講習会	浄土宗広島教区の僧職を対象に、掲題の内容にて基調講演を行った。
4. 府中町社会福祉協議会ボランティア研修会	単	平成 29 年 10 月	府中町社会福祉協議会 傾聴ひなげしの会	傾聴ボランティアを中心に、理念と実践について講演を行った。
5. 「牧師夫人」について	単	平成 29 年 12 月	浄土宗広島教区寺庭夫人勉強会	キリスト教の牧師の配偶者について、期待される役割の意義と問題点について、キリスト教とジェンダーというテーマに触れながら、講演を行った。

国際教養学部 国際教養学科 磯部 祐実子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				

(その他) ＜教材＞ 1. <i>Minimum Essentials 1.2</i>	共	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 教務課 基礎英語教 科書	広島女学院大学の主に基礎科目基礎英語 I～II で使用される教材の改訂を行った。 (Editors) Timothy Wilson、磯部祐実子 (Authors) Jamie Szuba, Paul Spicer, Timothy Wilson
国際教養学部 国際教養学科 伊藤 千尋				
著書、学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 「都市と農 村」	単	平成 29 年 9 月	島田周平・ 上田元編 『アフリカ (世界地誌 シリーズ8) 朝倉書店 (7頁)	地理学に関する大学での教科書的位置づけの著 書に、アフリカの都市と農村に関する歴史的事実 や現状を執筆した。(pp:80～86) 【関連授業科目：動態地誌学、人文地理学、地理 学概論、現代アフリカ社会論】
2. 「アフリカ・ 日本から考える 人口問題と都市- 農村関係」	単	平成 30 年 3 月	矢ヶ崎典 隆・森島 済・横山智 編『サステ イナビリティ ー地球 と人類の課 題ー(シリ ーズ 地誌 トピックス 第3巻)』 朝倉書店 (11頁)	地理学に関する大学での教科書的位置づけの著 書に、人口問題をアフリカと日本における人口動 態、特に都市-農村関係から検討する章を執筆し た。(pp:93～103) 【関連授業科目：動態地誌学、人文地理学、地理 学概論、現代アフリカ社会論】
(学術論文等) 1. 「アフリカに おける臨地教育 ー広島女学院大 学国際教養学部 の試みー」広島 女学院	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 国際教養学 部紀要 第5号 (10頁)	本学科における海外フィールド・ワークの取り組 みについて、実施内容や課題を報告した。 (pp:17～26) 【関連授業科目：アジア・アフリカ FW、グロー バル FW】
(教育実践記録等) 特記事項なし				

<p>(その他)</p> <p>1. 「書評：宮内洋平著『ネオアパルトヘイト都市の空間統治—南アフリカの民間都市再開発と移民社会—』」</p> <p>2. 「(学界通信) 7th European Conference on African Studies (ECAS) 参加報告」</p> <p>3. 「かくれんぼとマンゴ—??：ザンビアと日本の子どもの遊び」</p> <p>4. 「四国山岳地域における住民の生活と地域間ネットワーク：高知県吾川郡いの町本川地域を事例に」</p>	単	平成 29 年 12 月	アフリカ研究 92 2016 年 8 月 明石書店 (4 頁)	アフリカで近年増加している民間都市開発に関する著作について、地理学的観点からの書評を執筆した。(pp:163~166)
	単	平成 29 年 12 月	アフリカ研究 92 (3 頁)	2017 年に参加し、口頭発表を行った国際会議 (ECAS) について「アフリカ研究」の学界通信に寄稿した。会議のテーマや個別のパネルについて報告した。(pp:139~141)
	単	平成 30 年 2 月	田中樹・宮寄英寿・石本雄大編 『フィールドで出会う風と人と土 2』 総合地球環境学研究所 (5 頁)	フィールド・ワークを基盤とした研究者が、調査地の日常の暮らしに着目したエッセイ集に「子どもの遊び」をトピックにした文章を寄稿した。エッセイ集は総合地球環境学研究所のホームページから全文がダウンロードできるようになっている。(pp:74~78)
	単	平成 30 年 3 月	財団法人国土地理協会 2016 年度学術研究助成「九州・四国山岳地域における特異な植生景観の動態に関する地理学的研究 (代表：小山拓志)」 研究成果報告書 2018 年 2 月 (9 頁)	2016 年から 2017 年にかけて実施した四国山岳地域での共同研究について報告書を執筆した。報告書では、地域間ネットワークという視点から旧本川村の地域変容について明らかにした。 (pp:30~38)
<受賞>				
1. 第 29 回日本アフリカ学会研究奨励賞		平成 29 年 5 月		受賞対象業績：『都市と農村を架ける—ザンビア農村社会の変容と人びとの流動性』(新泉社、2015 年)
2. 第 17 回人文地理学会学会賞 (学術図書部門奨励賞)		平成 29 年 11 月		受賞作：『都市と農村を架ける—ザンビア農村社会の変容と人びとの流動性』(新泉社、2015 年)

国際教養学部 国際教養学科 関谷 弘毅				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. チーム基盤型学習 (TBL) において概念理解と学習意欲が形成されるプロセスの検討ー英語教育学専門科目のアクティブ・ラーニング授業実践からー	単	平成 30 年 3 月	『大学英语教育学会中国・四国支部紀要』 第 15 号 (査読有)	本研究は、チーム基盤型学習 (TBL) に取り組むことによって概念理解が促進されることを示した上で、TBL が概念理解と学習意欲に与える影響のプロセスを質的な分析によって検討した。発話の具体例に基づき概念を生成し、その妥当性を検討しながらカテゴリーの生成を行ったのち、関係性を検討して関連図を作成した。
2. 動物看護学生の英語学習動機尺度の開発	共	平成 30 年 3 月	『中国地区英語教育学会研究紀要』 第 48 号 (10 頁) (査読有)	本研究は動物看護学分野における ESP の立場に立ち、そこで学ぶ大学生が持つ特異な学習動機を反映できる尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討した。因子分析の結果、4 因子が見出され、「一般的教養・訓練」、「動物医療での実用」、「海外での生活・勉学」、「消極的義務感」と命名し、各因子とも十分に高い信頼性と妥当性を示した。 (pp: 43~52) 著者：関谷弘毅・大橋由紀子・片桐徳昭
3. Intensive Language Program: Effects on Japanese High School Students in China	単	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 大学院言語文化論叢 第 21 号 (10 頁)	The present study examined the effect of an intensive language program on the learners' beliefs and motivations of Japanese high school students placed in another second language environment. The results show that through the experience of an intensive language program, the students (a) became more conscious of grammar and tried to use English more accurately, and (b) became less likely to be passively motivated by the temptation of others. (pp: 1~10)
4. Comparing the Beliefs and Motivations of Japanese High School Students for English Learning in China and Japan	単	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 国際教養学部紀要 第 5 号 (9 頁)	This study compared the beliefs and motivations of Japanese high school students for English learning in China with those of regular high school students in Japan. The results showed that students at the high school in Japan held stronger beliefs about the "Importance of Grammar" than those at Shanghai Japanese High School. No significant differences between the schools were observed for "Relation," "Risk Taking," or "Reflection-Impulsivity." The data gathered in

				this study suggest the existence of a transfer effect regarding beliefs about the “Importance of Grammar.” (pp:91~99)
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 話し手のスピーキング力を促す聞き手 (招待有)	単	平成 30 年 3 月	第 16 回愛媛大学教育 改革セミナー「大学英語教育におけるスピーキング能力の育成と評価」	「話し手のスピーキング力を促す聞き手」のテーマで講演・ワークショップの講師を務めた。
2. チーム基盤型学習 (TBL) において概念理解に影響を与える要因の質的検討	単	平成 29 年 10 月	平成 29 年 度 JACET 中国・四国支部秋季研究大会	本研究は、大学において英語教育学の専門の授業を、チーム基盤型学習を取り入れて実施し、受講生の概念理解と学習意欲に与える影響及びそのプロセスを検討した。結果、通常の講義形式で行ったのに比べて、より高い概念理解度を示し、学習意欲にも好ましい影響が見られた。また、概念理解と学習意欲を促進するグループワークの機能は、自己の情意要因とグループ内の他者から影響を受けるプロセスが明らかになった。
3. Effects of listeners' active listening and questioning skills on speakers' speaking skills	単	平成 29 年 8 月	JACET the 56th International Convention	The present study examined the effects of teaching active listening and questioning skills to listeners to improve the speakers' speaking skills. It was concluded that (1) in order to maximize the improvement of learners' speaking skills, their listeners need to possess good listening skills, and (2) the effects of listening skills differ depending on the speakers' affective factors.
4. 動物看護学生の英語学習動機尺度の開発	共同	平成 29 年 8 月	全国英語教育学会 第 43 回島根研究大会	本研究は、ボトムアップ的なアプローチで動物看護英語学習動機尺度を作成した。「あなたはなぜ英語を勉強しているのですか」などの間に対する自由記述回答を収集・整理して質問項目を作成し、因子分析で構造を探った。その結果、「専門分野での実用」、「一般的充実・訓練」、「海外での生活・学習準備」、「消極的義務感」の 4 つの因子が見出された。 発表者： 関谷弘毅・大橋由紀子・片桐徳昭

国際教養学部 国際教養学科 戸田 慧				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 1. <i>Hemingway in Italy: Twentieth-First-Century Perspectives</i>	共	平成 29 年 7 月	University Press of Florida (11 頁)	A “Very Complicated” Diet for a Lion: The Functions of Food and Drink in Hemingway’s “The Good Lion” (pp.230~240) これまで子供向けの寓話として過小評価されてきたヘミングウェイの短編 “The Good Lion” における「食」のイメージを取り上げ、ライオンの表面的な「文明的」振る舞いの裏に隠された「野蛮」な欲望や高慢さが、「食」に対する好みや態度を通して暴かれる様を論じた。「食」に秘められた多様なイメージと役割を読み解くことで、この作品が持つ文学的価値を明らかにした。アメリカ文学における「食」のモチーフの多義性と文化的差異について考察した。 【関連授業科目：アメリカ文化概説、アメリカ文学史】
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
国際教養学部 国際教養学科 Paul Spicer				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. The International Academic Forum (peer reviewed journal)	単	平成 29 年 8 月	Journal of Media, Communication & Film. (Vol.4-1). (10 頁)	From Osaka to the Gion: Vernacular Modernism in Kenji Mizoguchi’s Osaka Elegy (1936) and Sisters of the Gion (1936). One of the most innovatory models for re-appraising the way in which popular cinema is able to articulate social and cultural change has been provided by Miriam Hansen’s idea of ‘vernacular modernism’ (Hansen, 2000). Hansen examines how cinema provided a popular, quotidian modernism in the context of western industrial influence upon East Asian culture. However, her definition does not

				<p>explore the notion of vernacular as an embedded discourse, one which combines both traditional and modern forms. In an article entitled 'Vernacular Culture' in the Journal American Anthropologist, Margaret Lantis uses vernacular to connote 'the culture-as-it-is-lived appropriate to well-defined places and situations' (1960, p.205).</p> <p>This paper examined how Kenji Mizoguchi deployed this 'regional vernacular style' through two of his seminal 1930s pictures. This is then explored through two areas where this style might be most obviously articulated; contemporary culture, and mise en scène. (pp:83~92)</p> <p>【Field: Film studies – Cultural Studies - Anthropology.】</p>
<p>(教育実践記録等)</p> <p>1. Teaching Film Language: Structuralism and Issues of Cultural Translation.</p>	単	平成 30 年 3 月	JALT Hiroshima Conference.	<p>This presentation addressed some of the key issues faced when teaching film studies to non-native students. It explored how, through certain theoretical frameworks (most notably structuralism), the function and relationship between character, setting, language, and props, can be categorised and organised to form a specifically cultural language. Finally, the paper addressed if (and how), such an approach can help non-native students fully appreciate a film's specific function in contemporary society.</p>
<p>(その他)</p> <p>1. Textbook for Hiroshima Jogakuin University Kiso Eigo classes 2. その他</p>	共	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 教務課 基礎英語教科書	<p>Minimum Essentials 1 (ME1). New Edition. Minimum Essentials 2 (ME2). New Edition. (Editors) Timothy Wilson, Isobe Yumiko (Authors) Jamie Szuba, <u>Paul Spicer</u>, Timothy Wilson</p> <p>1. Research conducted at the British Library (02/2018) for forthcoming book chapter: 'Above the Clouds: Discourses of the Spiritual and Religious in the Lyrics of Paul Weller'. Sacred Songs: Religion, Spirituality and the Divine in Popular Music Culture.</p> <p>2. Peer reviewer (articles), for the iafor International Journal of Film and Media</p> <p>3. Kakenhi related research at the National Film Center, Tokyo – (03/2018)</p> <p>4. Kakenhi related research at the National</p>

				Museum Tokyo – (03/2018) 5. Kakenhi related event; attendee at special talk/screening of the films of Kinuyo Tanaka at the Kawakita Eiga Kinenkan, Kamakura
国際教養学部 国際教養学科 Jamie Szuba				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1・Raising Awareness of Collocation in the EFL Classroom.	単	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 国際教養学部紀要 第 5 号 (17 頁)	This paper examines the constraints on word-combinations in English, and how they can be demonstrated in the classroom. It begins by outlining the competing theories of language underpinning the teaching of lexis. After defining the terms surrounding collocation, it discusses its relevance for learners and presents ideas from the literature as to which combinations should be prioritised. The second half of the paper uses these ideas to select lexical items from a newspaper article, and shows how classroom resources can be used to increase learner awareness of word-combination constraints. The paper concludes that corpora and concordance resources are particularly useful towards this aim, even if their use may be limited to higher level learners. (pp:100~116)
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1・Textbook for Hiroshima Jogakuin University Kiso Eigo classes	共	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 教務課 基礎英語教科書	Minimum Essentials 1 (ME1). New Edition. Minimum Essentials 2 (ME2). New Edition. (Editors) Timothy Wilson, Isobe Yumiko (Authors) <u>Jamie Szuba</u> , Paul Spicer, Timothy Wilson
国際教養学部 国際教養学科 Timothy Wilson				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				

<p>(学術論文等)</p> <p>1. Gender Differences in the Use of Apology Strategies in English by Japanese University EFL Learners.</p>	<p>単</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>広島女学院 大学 国際教養学 部紀要 第 5 号 (9 頁)</p>	<p>The aim of this study is to investigate the strategies used by EFL learners of English of the speech act of apology, and to find out how the strategies used differ between male and female learners. A Discourse Completion test (DCT) containing 8 apology scenarios was conducted among 100 university students (50 males and 50 females), and it was found that Japanese EFL learners lack knowledge and communicative competence for most of the strategies of apology in both genders but there were no significant differences in the strategies used between genders. (pp: 117~125) 【Field: Sociolinguistics, Pragmatics, Language learning】</p>
<p>(教育実践記録等)</p> <p><ポスター発表></p> <p>1. The Use of Apology Strategies in English and Gender Differences by Japanese University EFL Students.</p> <p>2. A longitudinal study exploring the merits and outcomes of a CEFR-based curriculum at Hiroshima Jogakuin University.</p>	<p>単</p> <p>単</p>	<p>平成 29 年 7 月</p> <p>平成 29 年 11 月</p>	<p>Poster Presentation at 18th World Congress of Applied Linguistics (AILA), Rio De Janeiro, Brazil</p> <p>Poster Presentation at 43rd Annual International Conference on Language Teaching and Learning (JALT), Tsukuba</p>	<p>「再掲のため、省略」</p> <p>As part of the new curriculum at Hiroshima Jogakuin University, a new basic English language learning program has been implemented called Step-Up English (SUE), which runs parallel to the CEFR scale (A1-A2) and is a goal oriented, performance-based approach to language teaching with a clear set of learning objectives and can-do statements; the idea of which is to make learning more measured and effective for students. This study takes a longitudinal approach to investigate the effectiveness of this program by way of a questionnaire survey to determine whether students' satisfaction, expectations and progress have been met, and uses course test scores to establish if the learning outcomes and objectives have been achieved.</p>

(その他) 1. Textbook for Hiroshima Jogakuin University Kiso Eigo classes	共	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 教務課 基礎英語教 科書	Minimum Essentials 1 (ME1). New Edition. Minimum Essentials 2 (ME2). New Edition. (Editors) <u>Timothy Wilson</u> , Isobe Yumiko (Authors) Jamie Szuba, Paul Spicer, <u>Timothy Wilson</u>
--	---	----------------	-----------------------------------	--

2017 年度 教育研究業績

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 細田 みぎわ				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. 「開かれた店主の棲—東日本大震災の被災地宮城県石巻市市街地におけるリノベーション空間の役割」	単	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 (8 頁)	「東日本大震災における被災地での復興住宅のあり方」(2012、2013 年度広島女学院大学学術研究助成_個人研究) の研究成果として完成した建築リノベーション作品である。宮城県石巻市市街地における店舗が、震災をきっかけに交流の場として街に開かれた。この空間は、2017 年アート・音楽・食で地域復興や振興につながる循環型のアートフェスティバルの展示会場の一つとして提供された。 (pp:87~94)
(その他) 特記事項なし				
人間生活学部 生活デザイン・建築学科 三木 幹子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 高校生の家庭科教育に対する意識調査 (第 2 報)—家庭科のイメージ調査—	共	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第 5 号 (9 頁)	高校生の女子と男子生徒を対象に、家庭科の単元のイメージに対する官能評価を行った。 男子よりも女子の方が、家庭科に対して興味・関心が高く、ほとんどの単元に対して、必要性が高いと評価していた。男子生徒が必要だと評価した単元は、食生活と調理実習のみであった。男子生徒の家庭科に対する関心の低さは、家庭環境が影響しており、日本の男女共同参画の現状が明らかとなった。 (pp:1~9) 著者：三木幹子、高橋亜弓 【関連授業科目：被服心理学】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 小野 育雄

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. 招待講座： 「生活空間デザインを名作住宅に学びましょう」	単	平成 29 年 10 月 20 日	早稲田公民館	広島市文化財団早稲田公民館主催「早稲田アカデミー」講座。ルイス・カーン（1901-1974）、アルヴァ・アールト（1898-1976）の設計した住宅のもつすぐれた生活空間デザインの静けさ（閑けさ）と深さを論じる。
(その他) 1. 学会委員： 日本建築学会 中国支部委員会 (歴史・意匠委員会) 委員	専	平成 29 年度	日本建築学会 中国支部	日本建築学会中国支部に設けられている研究委員会（「構造」・「材料施工」・「環境工学」・「都市計画」・「建築計画」・「農村計画」・「歴史・意匠」の 7 委員会）内の歴史・意匠委員として平成 23 年度に選出され、以後継続しており、本年度も同委員。

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 小林 文香

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月 (和暦)	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 山村留学家族方式による移住促進の可能性に関する研究 受け入れ地域の取り組みと実績	共	平成 29 年 年 7 月	日本建築学会 学術講演梗概集 (2 頁)	過疎化が進む地域の生活の持続性を見据え、山村留学家族形式が移住者参加および学校の存続に与える影響について考察することを目的とし、『山村留学実態調査報告書』をもとに、家族方式での実績がある 2 地域を抽出し、関係者へのヒアリング調査を実施した。 著者：福田由美子、山本幸子、下倉玲子、石垣文、 <u>小林文香</u>

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 **熊田 亜矢子**

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. WJ2 次圧が分割繊維複合不織布の性質に及ぼす影響 — スパンレース/スパンボンド分割繊維複合不織布のバギング性についての研究—	共	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第 5 号 (6 頁)	不織布の衣服用途への適用を目指し、風合いの観点からスパンレース不織布、力学的性能の観点からスパンボンド不織布を選び複合化した。また、風合いを保ち強度を高くするために分割繊維を使用し、さらに Water Jet 法による複合時の WJ2 次圧を変化させて試料を作成した。バギング試験結果より、WJ2 次圧を変えることにより瞬間回復率 (IR 値) が高くなる傾向が得られた。したがって、分割繊維スパンボンド不織布において WJ2 次圧を変化させることによりバギング性の改善に繋がることが示唆された。また、バギング性の評価値である、IG 値、ID 値と KES 法による基本力学特性である引張りエネルギー (WT 値) の測定値との間に高い相関が得られた。このことより、基本力学特性の引張りエネルギー (WT 値) の測定により分割繊維複合不織布のバギング性を評価することが可能であることが示唆された。(pp:11~16) [共同研究につき抽出不可] 著者：熊田亜矢子、矢井田修、大目木幸子、黒瀬真帆、児嶋幸子
(その他) 特記事項なし				

人間生活学部 生活デザイン・建築学科 **真木 利江**

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 広島平和記念公園の植栽樹木分析	共	平成 30 年 3 月	日本建築学会 中国支部研究報告集 第 41 卷 (4 頁)	広島市平和記念公園における植栽状況を分析し報告した。地区ごとの植栽樹木の特徴を明らかにし、公園全体における分布の特徴を、公園の全体構成、植栽樹木の類似性に注目して 8 点抽出した。 (pp : 853~856) 著者：真木利江、新畑朋子 【関連授業科目：卒業研究セミナー I d, II d】

(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. ウェストバリー・コート・ガーデンの構成の変遷	単	平成 29 年 9 月	2017 年度 日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集 （2 頁）	ナショナル・トラストの保存・復元活動において先駆的な事例であるオランダ式庭園ウェストバリー・コート・ガーデンを対象として構成の変遷とトラストによる保存・復元の概要を報告した。 （pp: 891～892） 【関連授業科目：建築意匠論Ⅰ】
人間生活学部 生活デザイン・建築学科 檜崎 久美子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 女学校創設期の服飾資料について一学校法人広島女学院の場合一	単	平成 30 年 2 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 5 号 （6 頁）	学校法人広島女学院の創設期に女学生たちがどのような服飾を身にまとっていたか、写真資料を基に整理をおこなった。今回は 1899(明治 32)年から 1909(明治 42)年の卒業式の写真を中心に分析を行い、晴れの日の服装の変化について特徴と合わせて言及していった。この研究は明治の女性の衣生活の実態について、日本家政学会服飾史・服飾美学部会に所属する研究者の勤務校を中心に研究を進める活動の一端を担い、今後比較検討を行う予定である。（pp:81～86） 【関連授業科目】日本服飾史、衣生活論
2. 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について(第 2 報)	共	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 幼児教育心理学科研究紀要 第 4 号 （10 頁）	広島女学院大学で行われているキリスト教教育のうち「キリスト教の時間」に着目し、参加者の感想を、テキストマイニングソフトを使用して分析することでどのような能力を育てているかについて検討を行った。第 2 報では 2016 年後半の学期に回収した感想を分析し、前半の学期と比較することで、学びに深まりがあり、非認知能力と呼ばれる職業生活に活用できる能力を育成することを確認した。 （pp:61～70） [感想のデータ化：単独、分析結果の検討・考察：共同、本文中「はじめに」：執筆を担当] 著者：前田美和子、加藤美帆、 <u>檜崎久美子</u> 【関連授業科目】家庭
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

2017 年度 教育研究業績

人間生活学部 管理栄養学科 石長 孝二郎				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要
(著書) 1. ステップアップ臨床栄養管理演習	共	平成 29 年 4 月	建帛社 (12 頁)	管理栄養士養成校向けの疾病に関する臨床栄養管理演習の教科書である。特に、栄養管理の経験が少ない学生向けに、管理栄養士養成校で栄養ケアプロセスが学修できることを目的に作成した。担当は臨床栄養管理の実際であり、栄養状態の考え方、情報収集、収集した情報に基づく栄養アセスメント、栄養診断、栄養介入を実践に基づいて解説した。 (pp:16~27) 【関連授業科目：臨床栄養管理、臨床栄養学実習Ⅱ】
(学術論文等) 1. がん治療対策食を考案するための嫌悪感を誘発する食べ物のニオイに関する予備的検討	共	平成 29 年 11 月	日本病態栄養学会 Vol.20 No.4 (13 頁)	がん治療対策食を考案するための嫌悪感を誘発する食べ物のニオイに関する予備的検討として、魚料理と柑橘系果物に焦点をあて、ニオイに対する気分の快・不快をにおい識別装置を用いて評価した。その結果、嗅覚嫌悪はニオイの強さだけではなく、ニオイの質が関連していると考えられた。また、食材に微量アンモニアを混入したところ、煮魚は不快な気分が強くなるのに対して、柑橘系果物は快(心地よい)な気分が強くなっており、悪臭であるアンモニア臭が中和もしくはマスクングされた可能性が示された。(pp:333~345) 著者：石長孝二郎、岡村仁 【関連授業科目：臨床栄養学】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
人間生活学部 管理栄養学科 下岡 里英				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等の 名称	概 要

(著書) 1. 栄養教育論実習・演習	共	平成 29 年 4 月	ドメス出版 (18 頁)	栄養教育の実施のための実習書である。栄養教育マネジメントを行う上の各ステップを段階ごとに整理し、さらに、実践活動をイメージできるように演習課題を作成した。 〔本人担当部分：第 2 章栄養教育マネジメント「アセスメントの進め方」(6 頁)、第 3 章栄養教育マネジメントの計画・実施「栄養カウンセリング技法」「コーチング技法」(6 頁)、第 4 章栄養教育マネジメントの評価「統計処理法」(6 頁)〕 編集：逸見幾代、執筆者： <u>下岡里英</u> 他 10 名 【関連授業科目：栄養教育論】
(学術論文等) 1. 高校中長距離陸上選手における栄養状態の実態調査と栄養教育方法の検討	共	平成 30 年 2 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 5 号 (9 頁)	高校中長距離陸上選手対象に、健康状況、食生活状況の評価を行った。23 名中 4 名に貧血の可能性が示された。競技特性として重要となる栄養素について不足が多くみられ、特に女子において鉄の不足が目立った。家庭で管理ができない昼食についてバランスの悪さが示された。そこで、教材として栄養素を補うことができる商品名を一覧として紙面で教育を行ったところ 10 名中 5 名で行動変容がみられた。(pp:17~25) 〔共同研究につき抽出不可〕 著者： <u>下岡里英</u> 、鮎川真紀、來海由希子、石見百江、石村和敬 【関連授業科目：栄養教育論、スポーツ栄養学】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 〈学会発表〉 1. 高校女子バスケットボール部への栄養サポート	共	平成 30 年 2 月	第 25 回広島県栄養改善学会 講演集 (14 頁)	高校女子バスケットボールチームに対し、集団指導、個人指導を行い、食事及び食意識調査を行った。目標をバランスの良い食事と糖質摂取にのみと、ポイントを絞ったため対象者の意識と行動の変容につながった。 〔共同研究につき抽出不可〕 著者：中藪宏美、漆谷秋絵、大谷遥、國本静菜、佐々木結香、脇阪佳央理、 <u>下岡里英</u>
人間生活学部 管理栄養学科 渡部 佳美				
著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				

(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) ＜報告書＞ 1. 広島お好み焼きの地域特性と発展性	共	平成 29 年 8 月	公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団 平成 28 年度年報 第 32 巻 (7 頁)	広島お好み焼きが愛され続けている理由を探ることを目的として、世代間、出身地別の意識や喫食状況・調理の相違を明らかにするために実態調査を実施し、比較検討を行った。世代を超えて好まれており、愛され続けている理由の中では「味がよい・おいしい・ボリュームがある」に分類できる記述が最も多く、おいしさを感じるものは「ソース」「味」の順に多かったことから、「ソース」がおいしさに最も影響していることが判明した。健康食としてのイメージは、世代間に有意差がみられた。また、店舗で提供されているお好み焼きのエネルギー・栄養素バランスを算出したところ、脂質の割合が多いことが判明した。(pp:468～474) 〔本人担当部分：調査、報告書全般作成を担当〕 著者：渡部佳美、奥田弘枝、那須みちこ
＜学会発表＞ 1. 郷土食に関する女子大生とその保護者の実態と比較	共	平成 29 年 5 月	一般社団法人日本食育学会 第 5 回総会・学術大会要旨集 P.30 (平成 29 年 5 月 13・14 日) 愛媛	広島お好み焼きに対する世代間の意識や喫食・調理の相違を明らかにするため、女子大生とその保護者を対象に実態調査を実施し、比較検討を行った。その結果、世代を超えて嗜好的にも好評価で親しみやすい郷土食であった。広島お好み焼きと健康イメージとの関連性は、世代間に有意差がみられた。普段食べている広島お好み焼きに必ず入れる材料は、年代によって材料に違いが見られ、喫食者の嗜好に合わせた多種多様な食材の提供が可能であることが、世代を超えて愛され続けている理由の一つと考えられる。一方で、女子大生の広島お好み焼きに対する健康的なイメージが、保護者に比べて低い要因として、選択する材料が関係していると推察される。 〔本人担当部分：調査及びデータの総括〕 著者：渡部佳美、那須みちこ、奥田弘枝
2. 広島県の家庭料理 おやつにみる地域特性	共	平成 29 年 8 月	日本調理科学会 平成 29 年度大会研究発表要旨集 p.101 (平成 29 年 8 月 31 日・9 月 1 日) 東京	昭和 30～40 年頃までに定着していた地域の郷土料理と、その暮らしの背景を明らかにするため、広島県を 8 地域に区分し、おやつの特性について調査した。 おはぎは全域で食されていた。地域特性のある行事食では、尾道・三原地域の亥の子餅、福山地域の田植え後の泥落としのべろ団子、西部地域のちまき、瀬戸内海沿岸のいが餅、備北山間部のおいりが挙げられた。地域で収穫される食材を活用したおやつも見られた。果物や海藻を用いたおやつでは、干柿、

3. 給食経営管理実習における手洗い遵守率の現状	共	平成 29 年 11 月	第 13 回日本給食経営管理学会 学術総会プログラム・講演要旨集 p.32 (平成 29 年 11 月 25・26 日)北海道	<p>祇園坊柿、いちじくジャム、ところてんなどの加工品が挙げられた。</p> <p>[本人担当部分: 中部台地の聞き書き調査およびデータの総括]</p> <p>著者: <u>渡部佳美</u>、奥田弘枝、石井香代子、近藤寛子、淵上倫子、高橋知佐子、岡本洋子、海切弘子、前田ひろみ、政田圭子、村田美穂子、上村芳枝、北林佳織、木村留美、木村安美、小長谷紀子、塩田良子、山口享子</p> <p>管理栄養士養成施設の 12 回の給食経営管理実習の調理作業において、適切なタイミングで必要な手洗いがなされたかを観察し、手洗い遵守率を求めた。実習の全調理作業における平均の手洗い遵守率は 57.2%であったこれを大きく 4 つの作業工程に分けて遵守率を集計してみると、下処理作業が 73.5%、加熱調理作業が 56.4%、非加熱調理作業が 50.3%、盛り付け作業が 50.9%であり、下処理作業での遵守率が有意に高かった。今後、手洗い遵守率を向上させるためには、調理作業で手洗いが必要なタイミングに関する指導の徹底、作業工程表を有効に利用し調理作業及び手洗いについての事前打ち合わせの徹底、学生への適切なデータのフィードバックと指導などが必要と考えられた。</p> <p>[本人担当部分: 実験分析]</p> <p>著者: 村上和保、<u>渡部佳美</u>、那須みちこ</p>
--------------------------	---	--------------	---	--

人間生活学部 管理栄養学科 市川 知美

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. 女子大学生の歯肉の炎症と食事摂取状況	共	平成 29 年 7 月	2017 年日本栄養改善学会 第 13 回中国支部学術総会	<p>歯肉炎症と食事摂取状況の関連を明らかにすることを目的とした。19~23 歳の女子大学生 65 名を対象とし、歯周状態や食事摂取量等の調査を行った。歯肉炎症がなかった群は、この集団の期待値に対してビタミン C を多く摂取した者が有意に高く、緑黄食野菜と果物がその主な供給源であった。ビタミン C はコラーゲン生成に関与し、粘膜の炎症を防ぐ働きがあることから、ビタミン C を多く摂取することが歯肉炎症を抑制した可能性が示唆された。</p> <p>[共同研究につき抽出不可]</p> <p>著者: 市川知美、朝日綾子</p>

2. ビタミン・ミネラルの不足は歯周病の可能性を高める	共	平成 29 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会	本研究は、各栄養素摂取量の過不足が歯周病を招く可能性について検討した。歯科医院を受診した患者 22 歳～90 歳の患者 94 名（男性 26 名、女性 68 名）を解析対象とした。歯周病レベルの評価、食事摂取状況調査等を行った。ビタミン B2 やビタミン C、カリウムの摂取が少ない者は、歯肉の炎症を引き起こす可能性が 8 倍～10 倍増加し、カルシウムの摂取が少ない者では重度な歯周炎になる可能性が 7 倍も高いことが判明した。 〔共同研究につき抽出不可〕 著者：市川知美、朝日綾子、岡優
(その他) 1. 2016 年度管理栄養学科海外フィールドワーク報告書	共	平成 30 年 3 月	広島女学院大学 2016 年度管理栄養学科海外フィールドワーク報告書 (44 頁)	本プログラムは、特別セミナーⅡ（管理栄養学科海外フィールドワーク）として実施され、管理栄養士・栄養士を目指す学生が、日本国内だけでなく諸外国の栄養問題にも意識を向け、諸外国の学生との交流の中で、地球レベルでの栄養の課題と取り組みについて考える意欲を高めることを目的としたものである。〔共同につき抽出不可〕 著者：市川知美、妻木陽子、坂井堅太郎

人間生活学部 管理栄養学科 **佐藤 努**

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 1. 農業技術大系・畜産編	共	平成 29 年 8 月	農山漁村文化協会 追補 36 号	鶏肉のうま味物質であるイノシン酸 (IMP) は、屠殺後 1 日未満で蓄積量がピークに達し、貯蔵期間の長期化とともに減少していく。IMP とグルタミン酸との間には味覚上の相乗作用が知られているが、鶏肉中の遊離グルタミン酸量は、貯蔵 3 日までほぼ横ばいなのに対し、IMP は着実に減少していくことになる。IMP 含量が多く新鮮な肉が、熟成された鶏肉であると考えられる。核酸関連物質群の分解を抑制し、不飽和脂肪酸の酸化等を防ぐためにも、徹底した品温管理を行い、速やかに利用することが大切である。(基 86 の 6～86 の 11) 〔担当部分：鶏肉の熟成過程とその評価〕 著者：佐藤 努、(ほか多数)
2. 最新農業技術畜産	共	平成 29 年 9 月	農山漁村文化協会 Vol.10 (6 頁)	【関連授業科目：食品学Ⅰ・Ⅱ】 「再掲のため、省略」(pp:213～218) 〔担当部分：鶏肉の熟成過程とその評価〕 著者：佐藤 努、浅石済、(ほか多数) 【関連授業科目：食品学Ⅰ・Ⅱ】

(学術論文等) 1. Aging of Japanese Anchovies (<i>Engraulis Japonicus</i>) during Their Salting and Marinating Periods.	単	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第 5 号 (6 頁)	カタクチイワシをフィレーにし、4℃で塩漬し、その後 20℃で油漬した。タンパク質の分解は、塩漬せず油漬処理したサンプルにおいて最も進行しており、初期腐敗値の約 25 倍もの揮発性塩基態窒素量 (VBN) が検出されたが、1.5 日以上の塩漬処理群においては、油漬期間中のタンパク質の分解は進行していたものの、水分活性は腐敗細菌が繁殖できない 0.80 前後に維持され、VBN の著しい増加は認められなかった。このことから、数日以上塩漬後に油漬すると、内部の自由水が制御された状態で熟成が進み、魚肉中には低分子化したタンパク質やペプチド等が蓄積されていくものと推察された。 (pp:57~62) 【関連授業科目：食品学Ⅰ・Ⅱ】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

人間生活学部 管理栄養学科 **土谷 佳弘**

著書、学術論文等の 名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. Distinct B Subunits of PP2A Regulate the NF- κ B Signaling Pathway through Dephosphorylation of IKK β , I κ B α , and RelA.	共	平成 29 年 12 月	FEBS Letters 591,2017. (12 頁)	PP2A は、B、B'、B'' および B''' / striatin を含む 4 つのファミリーに分類される足場サブユニット (A)、触媒サブユニット (C) および調節サブユニット (B) から構成される。本論文では、異なる PP2A 複合体が IKK β 、I κ B α および RelA / p65 の脱リン酸化によって NF- κ B シグナル伝達を調節することを見出した。(pp:4083~4094) 共著者：Yoshihiro Tsuchiya, Keiko Osaki, Mayu Kanamoto, Yuki Nakao, Ena Takahashi, Toru Higuchi and Hideaki Kamata
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				

人間生活学部 管理栄養学科 妻木 陽子

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. RBL-2H3 細胞におけるヒスタミン産生に及ぼす L-ヒスチジンおよび L-カルノシンの影響	共	平成 29 年 5 月	第 71 回 日本栄養・食糧学会 大会講演要旨集 P262	肥満細胞培養株 RBL-2H3 細胞に L-ヒスチジンおよび L-カルニシンを添加し、3 時間培養後の細胞内外のヒスタミン濃度を、競合阻害 ELISA 法を用いて検討した。その結果、脱顆粒を誘導した後の細胞外液のヒスチジン濃度が上昇したことから、L-ヒスチジンおよび L-カルノシンにより細胞内でのヒスタミン合成が促進されている可能性が示唆された。 〔共同研究につき抽出不可：研究の総括、実験の実施および解析、学会でのポスター発表を担当〕 著者：妻木陽子、鳥井蓉子、坂井堅太郎
2. 食物アレルギー児の食生活に対する保護者の意識	共	平成 29 年 9 月	栄養学雑誌 75 巻 5 号、 第 64 回日本栄養改善学会 学術総会講演要旨集 P168	食物アレルギーの有無による児の食生活に対する保護者の意識をアンケート調査により検討した。その結果、児の食行動では食物アレルギーの有無による違いは見られなかった。一方、食事の準備に関しては、食物アレルギー児の場合は手間や価格の問題点が挙げられ、困っている項目数も有意に高い結果となった。このことから、食物アレルギー児を持つ家庭では主に食事の準備での課題がみられたため、今後の支援体制の強化が必要であることが示唆された。 〔共同研究につき抽出不可：研究の総括、アンケート調査の実施および解析、学会での口頭発表を担当〕 著者：妻木陽子、鉄穴森陽子、坂井堅太郎

人間生活学部 管理栄養学科 野村 希代子

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				

<p>(学術論文等) 1. 医療機関で提供される牛乳に対する入院患者の評価と退院後の牛乳摂取状況</p>	共	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第 5 号 (7 頁)	<p>入院中に提供された牛乳に対する評価と退院後の牛乳の摂取状況を調査し、入院中の牛乳提供が退院後の牛乳摂取へ及ぼす影響を明らかにすることを目的とし、大学生の家族を対象に質問紙調査を実施した。その結果、入院中の牛乳提供を肯定的に受け入れる者が多かったが、ご飯と組み合わせた食事は受け入れられにくいことが示された。また、入院中に牛乳を摂取していた者は、カルシウム量の補給等の栄養的理由から、現在も牛乳を飲んでいる者が多く、その摂取量、摂取頻度が高かった。</p> <p>(pp:27~33) 著者：野村希代子、神原知佐子、杉山寿美 (他 3 名) 【関連授業科目：臨床栄養学実習Ⅰ】</p>
<p>(教育実践記録等) 特記事項なし</p>				
<p>(その他) ＜学会発表＞ 1. 治療食で提供される牛乳に対する対象者の嗜好と牛乳の摂取意欲への影響</p> <p>＜民間助成採択課題＞ 1. J ミルク・乳の社会文化ネットワーク学術研究助成 「治療食における牛乳利用の栄養学的評価と対象者の嗜好・摂取意欲の変化」</p>	共 共	平成 29 年 9 月 平成 29 年 8 月	第 64 回日本栄養改善学会(徳島)栄養学雑誌 75, 5 (p. 184) 平成 29 年度「乳の学術連合」研究報告 (8 頁)	<p>治療食で提供される牛乳に対する対象者の嗜好と、治療食で牛乳を提供することが対象者の牛乳の摂取意欲へ及ぼす影響を明らかにすることを目的とし、大学生の家族を対象に質問紙調査を実施した。その結果、入院中に牛乳の提供があり摂取していた者は、入院中の牛乳の提供を肯定的に受け入れており、現在も牛乳を飲んでいる者が多く、その摂取量も多かった。入院中の治療食における牛乳の摂取が、対象者に牛乳あるいは代替としての乳製品を食事に取り入れることを意識させ、日常的な牛乳あるいは乳製品の摂取の実践へ結びつけている可能性が示唆された。</p> <p>発表者：野村希代子、神原知佐子、岡壽子、石橋ちなみ、杉山寿美</p> <p>意識しなければ摂取しにくい栄養素であるカルシウムを豊富に含む牛乳に着目し、治療食献立における牛乳の栄養学的役割と嗜好・摂取意欲の変化を明らかにすることを目的とし、Ⅰ) 治療食献立集における牛乳の利用状況、Ⅱ) 医療施設における治療食献立への牛乳の活用実態、Ⅲ) 牛乳の利用状況と入院経験の関係に関する調査を行った。その結果、Ⅰ) 治療食献立集の献立は、特にカルシウムで習慣的な不足のリスクが存在することが明らかとなった。Ⅱ) 医療施設で牛乳を提供する目的は、治療食種に関わらず「カルシウム量の調整」であり、栄養学的視点であった。Ⅲ) 入院時に牛乳を摂取していた者</p>

				<p>は、入院中の牛乳提供を肯定的に受け入れており、現在も牛乳を飲んでいる者が多く、その摂取量、摂取頻度が高かった。これらのことから、治療食における牛乳提供の意義を、管理栄養士・栄養士が理論的に把握し、献立作成や患者への食事指導等に反映させることが必要であると考えられた。</p> <p>(pp: 社 37~社 44)</p> <p>研究代表者: 杉山寿美</p> <p>研究分担者: 野村希代子、岡壽子、神原知佐子</p> <p>[本人担当部分: 献立解析、入院経験者等への調査、統計処理、執筆]</p>
--	--	--	--	---

人間生活学部 管理栄養学科 **野村 知未**

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 特記事項なし				
<p>(その他)</p> <p><学会発表></p> <p>1. ダッチオープンで調理した料理の嗜好特性とうま味分量</p>	共	平成 29 年 8 月	日本調理科学会 平成 29 年度 大会研究発表要旨集 (54 頁)	<p>ガスダッチオープンで調製した料理の嗜好特性を明らかにすることを目的とした。ダッチオープン調理は、高温緩慢加熱であり、食材の組織変化を促したことから、食材由来のうま味成分、Na 量を多く浸出し、高い嗜好特性と添加塩分量を減少できることが明らかとなった。</p> <p>[共同研究につき抽出不可: 実験、考察担当]</p> <p>著者: 林秀之、山元克也、水馬義輝、佐藤英男、塩田良子、野村知未、北和貴、彦田星香、杉山寿美</p>
<p>2. 広島風お好み焼きのにおいにソース塗布後の焼成時間が及ぼす影響</p>	共	平成 29 年 8 月	日本調理科学会 平成 29 年度 大会研究発表要旨集 (54 頁)	<p>広島風お好み焼きのおいしさの要因を明らかにするため、ソース塗布後の焼成時間がにおいに及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。焼成による特有のにおい化合物は増加し、においの質は変化するものの、においの強さに変化は認められなかった。これは、鉄板上で焼成しつつ食す広島風お好み焼きのおいしさの一要因であることが示唆された。</p> <p>[共同研究につき抽出不可: 実験、考察担当]</p> <p>著者: 檀上沙梨、村川秀樹、吉田充史、野村知未、石長孝二郎、杉山寿美</p>

2017 年度 教育研究業績

人間生活学部 幼児教育心理学科 神野 正喜				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 道徳の授業における心情理解に関する一考察	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 幼児教育心理学科研究 紀要 第 4 号 (8 頁)	平成 30 年度から「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として位置づけられるにあたり、これまでの授業の反省点の一つとして、「読み物資料の登場人物の心情理解にのみに偏った形式的な指導に陥っているのではないか」という指摘があった。本稿では、浜田広介作「泣いた赤おに」を考察の対象にして、道徳の授業における登場人物の心情理解が問題なのではなく、それに接続する、「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とともに生きるための基盤となる道徳性を養う」学習活動を設定することの重要性を述べた。(pp:53~60) 【関連授業科目：道徳教育指導論、初等国語科教育法】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
人間生活学部 幼児教育心理学科 三桝 正典				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 日本の伝統文化と現代アートの融合ー島根県石見「龍泉山西性寺」襖絵を通して	単	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学論集 第 65 集 (電子版第 5 号) (11 頁)	筆者のこれまで継続している研究テーマ「日本の伝統文化と現代アートの融合」に沿って制作した、島根県石見「龍泉山西性寺」襖絵「龍図」を紹介しながら伝統と現代アートの融合によって感じる面白さの一端に触れ、新しい美の創造を目指したものである。(pp:23~33) 【関連授業科目：卒業研究セミナー】

(教育実践記録等) 1. 小学校図画工作科の学びが豊かになる表現・鑑賞指導に関する一考察	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 幼児教育心理学科紀要 第 4 号 (10 頁)	平成 29 年度広島大学附属東雲小学校で実施された東雲研究会に向けて、図画工作科の天野紳一教諭が取組んだ教材研究と授業実践を通して、小学校図画工作科の学びが豊かになる表現・鑑賞指導のあり方を提案したものである。(pp:43~52) 【関連授業科目：初等図画工作科教育法】
(その他) <作品> 1. 宮島老舗旅館「岩惣」襖絵「錦楓」「観月」	単	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学 人間生活学部紀要 第 5 号 (11 頁)	平成 27~28 年にかけて、宮島を代表する老舗旅館「岩惣」の離れ「錦楓亭」と新館「観月の間」の 2 つの襖絵制作の過程を記したものである。 (pp:95~105) 【関連授業科目：卒業研究セミナー】
<講師> 1. 広島県安芸郡小学校図画工作部会講師	単	平成 30 年 2 月 7 日	広中央小学校	広島県安芸郡の公立小学校の先生で組織されている「小学校図画工作部会」に講師として参加。講話とワークショップ「一枚の紙を使って」を織り交ぜた講演を行った。 【関連授業科目：初等図画工作科教育法】
2. 広島市私立保育連盟実技講座「造形」講師	単	平成 29 年 6 月 16 日 9 月 8 日 11 月 17 日	広島市私立保育連盟	広島市の公立私立の保育園の先生を対象に開催される実技(造形活動)研修会に講師として参加。年 3 回開催。 【関連授業科目：保育内容表現Ⅱ】
3. 安芸高田市立吉田小学校卒業制作「自画像」講師	単	平成 30 年 2 月 20 日	安芸高田市立吉田小学校	広島県安芸高田市立吉田小学校で大正時代から続けられている「卒業自画像制作」の講師を担当。6 年生を対象に技術指導を行う。 【関連授業科目：初等図画工作科教育法】
<ワークショップ> 1. ピカソの絵を使っての鑑賞・表現活動	単	平成 29 年 6 月 9 日 平成 29 年 6 月 23 日 平成 29 年 10 月 13 日	聖モニカ幼稚園年中 ナーガ保育園 ゲーンズ幼稚園	ひろしま美術館にて幼稚園園児を対象に常設展の作品(約 80 点)を鑑賞後、作品をもとに美術館内で絵からイメージする「続き絵」を描く鑑賞表現活動を行う。 【関連授業科目：図画工作Ⅰ】
2. 妖怪絵巻物制作	単	平成 29 年 5 月 28 日	奥田元宋・小由女美術館	奥田元宋・小由女美術館で開催された企画展の関連企画として開催された小学生から一般を対象としたワークショップ。
3. 「ぎょくおんさんの絵に親しもう！」	単	平成 30 年 3 月 24 日	奥田元宋・小由女美術館	奥田元宋・小由女美術館で開催された企画展「平田玉蘊美の交遊」の関連企画として開催された小学生から一般を対象としたワークショップ。平田玉蘊の描いた花や鳥を鑑賞し、それぞれの感性で「自分の好きな花・鳥」を色紙に描いて、江戸時代の絵の世界を身近なものとして楽しむ内容。 【関連授業科目：図画工作Ⅱ】

人間生活学部 幼児教育心理学科 中村 勝美				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 幼稚園教育要領(2017年)改訂と接続期の学び 2. 保育者養成校における子育て支援活動と学生の学び	単 共	平成 30 年 2 月 平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第 5 号 (9 頁) 広島女学院 大学 幼児教育心 理学科紀要 第 4 号 (8 頁)	2017 年 3 月に改訂された幼稚園教育要領について、これまでの改訂の経緯と歴史的背景について考察した。少子化による子ども数の減少と共働き家庭の増加による保育需要の急増により、幼稚園の園児数が減少する時期、家庭教育が問題視されるようになったことを明らかにした。また、幼稚園教育要領の改訂について、小学校教育との接続という視点から整理した。(pp:63~71) 【関連授業科目：保育課程論】 広島女学院大学幼児教育心理学科で開催されている「バァバの子育て支援広場」に参加した学生に質問紙調査を実施し、子育て支援広場実践による学生の教育効果および今後の課題について明らかにした。子育て支援活動は、学生の主体的学習意欲を引き出すことが明らかになった。養成校での実践においては、相談支援以外の子育て支援の技術について、学生の理解を深めることの重要性を指摘した。(pp:1~8) 著者名： <u>中村勝美</u> 、戸田浩暢、森保尚美、加藤美帆、大橋隆弘、村上智子、山下京子 【関連授業科目：保育原理、子育てとライフキャリア、地域子育て支援セミナー】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 社会保障と教育の接続をめぐって	単	平成 30 年 3 月	中国四国教育学会 教育学ジャーナル 第 22 号 (3 頁)	現代の教育改革の多くは、グローバル化の進展に伴う社会経済の変動と福祉国家の再編と結びついており、近年学力の所得間格差や子どもの貧困による社会的剥奪が問題となっている。こうした状況において、教育とは子どもの生涯発達や生存・生活にどのような意味を持つのか、仁平典宏と倉石一郎の論を対比させ考察した。(pp:31~33)
人間生活学部 幼児教育心理学科 山下 京子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要

(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 発達障害のある女子大学生のキャリア教育に関する研究	単	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学論集 第 65 集 (電子版第 5 号) (14 頁)	発達障害のある学生の就労支援において、キャリア発達の視点を取り入れたキャリア教育が重要となる。日本学生支援機構の調査結果と同様、本学においても障害学生の就労支援、特にキャリア教育の在り方については今後の検討課題となっている。本学における女性のためのライフキャリア教育の取り組みでは、キャリアを職業キャリアのみでなく、生涯にわたるキャリア、ライフキャリアとしてとらえており、発達障害のある学生にとっても有益である。本学の障害学生支援体制を背景とした、キャリア教育の在り方について、インクルーシブ教育を目指した授業デザイン、ユニバーサルデザインの可能性について言及した。(pp:9~22) 【関連授業科目：特別支援教育、女性とライフキャリア】
2. 発達障害のある女子大学生のためのアクティブ・ラーニングを用いたキャリア教育の在り方について	単	平成 30 年 2 月	広島女学院 大学 人間生活学 部紀要 第 5 号 (11 頁)	日本学生支援機構の調査結果に示されたように、我が国の高等教育機関における発達障害学生数が漸増しており、合理的配慮の提供とインクルーシブ教育の推進が必要とされている。本研究は、発達障害学生や定型発達学生の両者を対象としたキャリア教育プログラムを検討することを目的とした。キャリア教育は、学生の多様なニーズに合うように実施されるべきである。例えば、教育内容、教育方法や技能、ルーブリック評価などのユニバーサルデザイン化を要する。文部科学省が推進しているアクティブ・ラーニングを導入するには、グループワークやプレゼンテーション等の活動で、合理的配慮の提供をどのように行うかや、全ての学生にとってのユニバーサルデザインとは何かを検討することが重要であり、これがまさにFDとなると考えられる。 (pp:35~45) 【関連授業科目：特別支援教育、教育相談、学校カウンセリング】
3. 保育の質と保育者養成に関する研究	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 幼児教育心 理学科研究 紀要 第 4 号 (13 頁)	幼児教育・保育の質は、国家経済成長を考える際に国際的な注目を集めている。本研究は、幼児教育・保育の質研究の国際的動向や、ECERS-R や SSTEW のような幼児教育・保育のプロセスの質を測定する尺度を紹介した。保育者養成校においては、教育カリキュラムは保育プロセスの質の改良に基づいて構成される必要があり、最も重要な学修目標は、保育者のコミュニケーション能力を発達させることである。コミュニケーション能力を発達させる教育プログラムの例として、新設科目である『コミュニケーションの理論と実践』のシラバスを提案した。 (pp:9~21)

				【関連授業科目：コミュニケーションの理論と実践、保育相談支援、教育相談、学校カウンセリング】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 1. 広島経済大学 人権問題研修会 講師 「障害者差別 解消法と障がい学生 の支援について」	単	平成 29 年 8 月 25 日	広島経済大 学	障害者差別解消法と我が国における高等教育機関 の障害学生支援体制の推進との関連について解説 し、障害学生の支援の在り方について、本学を事例 として検討を加えた。
人間生活学部 幼児教育心理学科 前田 美和子				
著書、学術論文等 の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 特記事項なし				
(教育実践記録等) 1. 非認知能力を 育てるキリスト 教主義教育の可 能性について(第 2 報)	共	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 幼児教育心 理学科研究 紀要 第 4 号 (10 頁)	広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要第 3 号 に投稿した「非認知能力を育てるキリスト教主義 教育の可能性について」の継続研究である。本学 の「キリスト教の時間」の教育的な価値を明らか にするため、テキストマイニングソフトによる分 析を行ったところ、ノンクリスチャンがほとんど である初年次の学生に対し、キリスト教主義教育 により非認知能力を育成する可能性が明らかにさ れた。また、それぞれの学科の専門性によって異 なった教育効果があることも明らかにした。 (pp:61~70)
2. 現代日本にお ける子どもの貧 困の研究につい て	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 幼児教育心 理学科研究 紀要 第 4 号 (7 頁)	著者：前田美和子、加藤美帆、檜崎久美子 近年、子どもの貧困について多様な方面からアプ ローチされて、研究と対策が進んでいるが、それ でもなお孤立感や閉塞感など、子どもたちの精神 的な貧困を重点的に扱った研究や対策は、経済や 社会的な改善を目指した研究や取り組みに比べ、 まだまだ少ないように思われる。 そこで本論文では、現代日本における子どもたち の精神的な貧困についての研究や対策がどの程度 取り組まれているのか明らかにした。(pp:71~77)

(その他) 1. 日本キリスト教教育学会発表	単	平成 29 年 6 月	日本キリスト教教育学会 ニューズレター No,70 (4 頁)	人間力を育てるキリスト教主義教育の可能性について、2016 年度の本学の「キリスト教の時間」のコメントカードからテキストマイニングソフトによる分析を行った。コメントカードからは受講生が各回のテーマを主体的に受け止め、そのテーマに寄り添いながら自分なりに咀嚼して取り込もうとしている姿勢が見られた。こうした機会を繰り返すことにより、学生一人一人が自己認識を深め、社会やその問題への視野を広げ、社会性の獲得へと至るきっかけとなることが期待できることを示した。
2. 同志社女子大学秋季リトリート	単	平成 29 年 10 月	同志社女子大学 2017 年秋季リトリート (2 頁)	「無から有へ 絶望から希望へ わたしの力の使い方」をテーマに、太平洋戦争前、戦中のとくに被爆地ヒロシマについての歴史と、戦後の復興、現在広島で行われている平和教育の取組みについて講演を行った。(pp:6~7)
3. 「キリスト教保育」11月号	単	平成 29 年 11 月	「キリスト教保育」 11月号 (13 頁)	キリスト教保育連盟が発行している月刊誌「キリスト教保育」中の「図書紹介」にて『戦争で死んだ兵士のこと』を紹介した。
4. 富坂キリスト教センター「子どもの貧困とキリスト教」発表	単	平成 30 年 3 月		医療系、特に終末期医療を中心に研究と教育が進められているスピリチュアルケアおよびスピリチュアルペインの定義を見直し、貧困の子どもたちもスピリチュアルペインを感じているのではないかという可能性を示唆した。その上で、今後、貧困の子どもたちにとっての支援として、経済的、社会的支援のみならず、スピリチュアルケアも重要な支援の一つとなる可能性を示した。

人間生活学部 幼児教育心理学科 森保 尚美				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概 要
(著書) 1. 「生活科で子どもは何を学ぶかーキーワードはカリキュラムマネジメントー」	共	平成 30 年 3 月	東洋館出版 (10 頁)	第 12 章「低学年なりの表現を生かす生活科」を執筆。育てたあさがおの歌を創ったり、からだで表したりする実践例を述べ、学習過程での思考が表現と一体となって表れるようにする授業づくりの具体例を示した。(pp:157~166) 〔監修 須本良夫、森保尚美、他 15 名〕 【関連授業科目：学級づくりの理論と実践、初等音楽科教育法、保育内容表現 I、音楽 I】
(学術論文等) 1. 保育者養成校における子育て支援活動と学生の学び	共	平成 30 年 2 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要	学内の子育て支援広場にボランティアスタッフとして参加した学生を対象として、子育て支援活動の教育効果について調査し、保育者養成校における子育て支援広場の課題を検討した。(pp:59~68)

<p>2. 協働を必然とする音楽づくりの考察 —ふれあいドラムを活用して—</p> <p>3. 音楽鑑賞授業における課題設定の考察</p> <p>4. 「音楽鑑賞授業における音楽活動の検討—キャラクター・ダンスの指導と教材の適用—」</p>	<p>単</p> <p>単</p> <p>単</p>	<p>平成 30 年 3 月</p> <p>平成 30 年 3 月</p> <p>平成 29 年 10 月</p>	<p>第 5 号 (10 頁) 『教育学研究紀要』 (CD-ROM 版) 第 63 卷 中国四国教育学会 (6 頁)</p> <p>『学校音楽教育実践論集』 第 2 号 日本学校音楽教育実践学会 (2 頁)</p> <p>『日本音楽教育学会 第 48 回全国大会プログラム』要旨 (1 頁)</p>	<p>【関連授業科目：子どもと遊び、表現Ⅰ、表現Ⅲ、初等音楽科教育法、児童文化】 協働を必然とする教具を使って音楽づくりの授業を実践することを通して、育成される資質と能力について考察した。教具の形状と奏法の簡易さが、主体的な意見交流の活性化を促し、音を重ねたり組み合わせたりするための時間確保につながることがわかった。作品の構造結果から、高学年の音楽づくりのねらいを実現する素材としての電子楽器の価値が確認できた。(pp:555～560)</p> <p>【関連授業科目：初等音楽科教育法、表現Ⅰ、表現Ⅲ、児童文化】 音楽鑑賞授業において授業者が発信する複数かつ重層的な課題を総体的に捉え、習得される知識の質や、順序、構造を分析し、授業づくりの要点を見出した。要点の第 1 は、音楽的概念に気付くまでの児童の思考が、映像や身体運動などの情緒的領域等から変形をたどるということを理解し、適切な音楽活動を取り入れることである。第 2 の要点は、目標の下位目標については、児童の聴取状況にあわせ、焦点化・精緻化した課題を柔軟に設定することであった。</p> <p>【関連授業科目：初等音楽科教育法、音楽Ⅰ、音楽Ⅱ】 各国の民謡と踊りが存在するバレエの「キャラクター・ダンス」に着目し、舞踊家へのインタビューと RAD (Royal Academy of Dance) のシラバス及びレッスン動画を参照した後、ロシア民謡の音源を使って小学校で実践を行った結果を分析し、発表した。(p. 36)</p> <p>【関連授業科目：子どもと遊び、表現Ⅰ、表現Ⅲ、初等音楽科教育法、児童文化】</p>
<p>(教育実践記録等) 特記事項なし</p>				
<p>(その他) 1. 「(6) 小学校教員教員養成課程 音楽科コアカリキュラム(試案) 解説」 「(6) 小学校教員養成課程音楽科事例集」</p>	<p>共</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>広島大学 大学院教育学研究科 「教科教育モデルコアカリキュラムの策定事業」報告書 (19 頁)</p>	<p>文部科学省委託「教科教育モデルコアカリキュラムの策定事業」として、広島大学大学院教育学研究科(事業実施責任者：木原成一郎)が広島大学・私立大学・小学校管理職・教育委員会で各教科グループを構成し、モデルカリキュラムを作成した折の、音楽科グループの一員・私立大学代表であった。報告書は、文部科学省教職員課長を招いて各教科が報告をした会の記録をまとめたものである。(pp:84～97、149～153) 〔共同研究につき抽出不可:音楽科の指導法とシラバスについて執筆・校正〕 【関連授業科目：初等音楽科教育法】</p>

人間生活学部 幼児教育心理学科 村上 智子				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1. 園外環境の活用と園庭環境の創造を担う保育者の育成に向けた養成校の試み～三瀬保育園(鶴岡市)での大学生・高校生の合同インターン事業～	共	平成 30 年 3 月	東北文教大学・東北文教大学短期大学部紀要第 8 号 (3 頁)	「環境を通した保育」を探求している保育園でのインターンを養成校が設定することの意義と課題を整理するため、協力園の園外・園庭環境を整理した上で、インターンのプログラム構成と実際の様子を分析した。その結果、実際の遊具体験が参加者による保育の理解の深化に効果的だった一方、見学の視点不足など事前指導のあり方が課題として認識された。また、参加者のアンケートを分析したところ、合同で行ったことが有意義な刺激となったこと、他、見学・体験・専門家による学びの振り返りを一貫して行ったことで、参加者が自らの子ども観や保育職のイメージを再構成する契機となり、参加者の保育職への意欲や「環境を通した」保育の本質への意識の高まりに繋がったことが示された。 (pp:12～14) 著者：下村一彦、福田真一、村上智子 【関連授業科目：保育内容総論】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
人間生活学部 幼児教育心理学科 大橋 隆広				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は 発行雑誌等 の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文) 1. 「教育における「リベラル」、「リベラリズム」論の地平」	単	平成 30 年 2 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要第 5 号 (7 頁)	教育における「リベラル」、「リベラリズム」の相関を俎上にあげながら、教育における「リベラリズム」が突き付けている課題について整理することを目指した。分析からは、教育における「リベラル」と「リベラリズム」は、政治・社会哲学における「リベラリズム」の発展と無縁ではなく少なくない影響を受けていることが見て取れた。また、一方で現象としてそれらの政治・社会哲学において近年課題と

2.「2017年学習指導要領改訂に見る特別活動の展開」	単	平成30年3月	広島女学院大学 幼児教育心理学科紀要第4号 (12頁)	なっている「自由からの逃走」あるいは「全体主義」が教育の領域においても見て取れることも明らかになった。(pp:73~79) 【関連授業科目：教育原理】 2017年3月に改訂された学習指導要領、なかでも特別活動の目標や内容等およびその説明から、改訂によるその指導要領の内容・目標等および位置づけの変化を探った。(pp:23~34) 【関連授業科目：特別活動論】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				
人間生活学部 幼児教育心理学科 戸田 浩暢				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文等) 1.「生活科の内容の見直しに係る考察」	単	平成30年2月	広島女学院大学論集第65集 (電子版第5号) (12頁)	本稿では、平成29年に改訂された小学校学習指導要領「生活科」に関して、次の3点を考察している。1点目は、大幅に変更された「生活科」の目標の構造はどのようになっているのかを明らかにしている。2点目は、内容の見直しについて分析的に論考している。3点目は、今後求められる「生活科」の授業実践に係る課題について考察している。さらに、今後望まれる「生活科」の授業に関して、近年作成された模範となる授業指導計画を取り上げて構造を明らかにし、より改善された授業指導計画を提示した。(pp:35~46) 【関連授業科目：生活】
2.「小学校学習指導要領『生活』の特色」	単	平成30年2月	広島女学院大学 人間生活学部紀要第5号 (9頁)	本稿では、平成29年に改訂された小学校学習指導要領「生活科」に関して、次の3点を考察している。1点目は、大幅に変更された「生活科」の目標の特色についてである。2点目は、「生活科」固有の「主体的・対話的で深い学び」に関して、どのような在り方が求められているのかについてである。3点目は、「生活科」の授業実践に係る課題についてである。最後に、今後望まれる授業に関して、「生活科」固有の「主体的・対話的で深い学び」に着目し、より改善された授業指導計画を提示した。 (pp:47~55) 【関連授業科目：生活】

3. 「小学校社会科の内容の見直しに係る考察」	単	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 幼児教育心理学科紀要 第 4 号 (8 頁)	本稿では、平成 29 年に改訂された小学校学習指導要領「社会科」に関して、次の 3 点を考察している。1 点目は、大幅に変更された「社会科」の目標の構造はどのようになっているのかを明らかにしている。2 点目は、内容の見直しを概観するとともに「社会科」固有の「主体的・対話的で深い学び」の在り方について考察している。3 点目は、「社会科」の授業実践に係る課題について考察している。最後に、今後望まれる授業に関して、「社会科」固有の「主体的・対話的で深い学び」に着目し、より改善された授業指導計画を提示した。(pp:35~42) 【関連授業科目：社会】
4. 「保育者養成校における子育て支援活動と学生の学び」	共	平成 30 年 3 月	広島女学院 大学 幼児教育心理学科紀要 第 4 号 (8 頁)	本稿では、学内の子育て広場にボランティアスタッフとして参加した学生を対象として、子育て支援活動の教育効果について調査し、保育者養成校における子育て支援広場の課題を検討している。その結果、学生に対して、乳幼児の発達理解や遊び支援について体験的理解を促進する可能性が示唆されるとともに、保護者との子育てのパートナーシップの構築のために必要とされる、相談支援以外の保育者の専門性について、学生に意識させることが重要であることがわかった。(pp:1~8) 〔本人担当部分：共同研究につき抽出不可〕 著者：中村勝美、戸田浩暢、森保尚美、加藤美帆、大橋隆広、村上智子、山下京子 【関連授業科目：地域子育て支援セミナー】
(教育実践記録等) 特記事項なし				
(その他) 特記事項なし				